

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390100093		
法人名	医療法人借行会		
事業所名	認知症高齢者グループホームちくさ		
所在地	愛知県名古屋千種区下方町7丁目29番地1		
自己評価作成日	H24年10月24日	評価結果市町村受理日	平成25年7月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kainokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kiban=true&livosvoCd=2390100093-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋守山区森孝3-1010
訪問調査日	H24年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の安心・安全には特に力を入れております。ハード面では、温度と湿度を同時にコントロールしてくれる「モイストプロセッサ」を導入し、空気の乾燥を防ぎ、インフルエンザ等の感染を出来る限り抑えています。又、睡眠リズムを把握する「眠リスクン」を導入し夜間の転倒の危険性が高い時やトイレで起きようとした時、未然に情報が職員に伝わるように利用者様の睡眠状況をセンサーで常にキャッチしており、事故の軽減に努めています。ソフトの面では豊富な経験を持った職員が集まったことでより、より専門性の高い支援ができています。利用者様の笑顔がより多く見れるように様々な行事を企画したり、日ごろの外出の機会を多くしたりと常に利用者様の事を職員間で話し合いをし、より良いサービスが提供できるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

名古屋市東部の丘陵地にあり、細い路地に囲まれた昔からの住居と、新しく開発された大通りに面した新しいビルが混在する地域である。地域の特色として坂が多いが、それでも陽気のいい日にはほぼ毎日30分ほどの行程を散歩し、四季折々の花々を愛でる事を、入居者は楽しみにしている。母体が総合病院であるため、看護師が常勤として配置され、緊急時の職員・家族の安心を支えている。すでに10名の職員が救急救命講座を修了し、全職員終了を目指している。新設ホームの多くが共通に抱える、地域への浸透・運営推進会議・外部への公開化に頭を抱えているが、そのきっかけをつかみ来年度の飛躍を管理者は期している。インフルエンザ予防のため「モイストプロセッサ」により、温度・湿度を集中管理し、また「眠リスクン」により、各入居者の入眠・寝返り・覚醒の脳波を事前にキャッチし、 아이폰にアラームを発し即座に職員が駆けつけ、離床前に事故を防ぐシステムが採用されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を各箇所に掲示し、常に確認できるようにしてある。理念に沿った介護ができるように日々職員間で話し合っている。しかし、すべての職員が出来ているかという疑問が残るため今後の課題である。	入居者の自立を助けるために「今までの生活様式の継続」「持てる力の発揮」「自信と感情が生まれる助け」「地域の一員としての暮らし」「家族とこのころのゆとりある関係」を支えることを掲げ、実践している。今年開所したばかりで管理者は「職員は暗記できていない」と話すが、ケアの実践では理念が具現化されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には利用者様と参加している現状がある。しかし、地域の中ではまだ当施設は日が浅いため1日でも早く地域の一員になれるように努力したいと思う。	町内会に加入し地域のお祭りにも入居者とともに参加しており、ホーム便りでは入居者の楽しい表情が報告されている。盆踊りにはホームから差し入れもし、地域浸透に努力しているが、開設から日も浅く、目立った成果は表れていないと管理者は感じている。区内のグループホームと認知症連携の会で情報交換している。	常に地域への浸透を心掛けているが、道半ばだと管理者は感じている。ホームが潜在的に持っている、認知症の知識・介護方法・家族の不安解消などで地域のニーズにこたえ、地域にその『眠れる宝』で貢献できる、認知症の中核として活躍できるように、さらなる活躍に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の認知症に対しての相談役になれている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議といった項目で実施は出来ない現状がある。	まだ会議は開催されていない。開設時にはどのホームも頭を悩ます、「第三者として地域のだれに頼んだらいいのか」、「何を話したらいいのか」、「何を地域にオープンにしたらいいのか」、それらをずっと手探りしていたが、来年度から開催予定である。提携医から「認知症相談会をやろう」との提案もあり、それが一つのきっかけになればと思っている。	どのホームも最初に直面する運営推進会議の取り組みだが、地域のキーパーソンも身近にあり、提携医(認知症専門医)からの力強い言葉もありこれを糸口にしたいと管理者は語る。ホームの認知に関する人的・知的財産を外部にも発信し、地域・外部に開かれたホームとなるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の内容など不明なことをご指導いただいたりし、連携を取っている。	要介護認定調査員を行政に派遣し、市の認知症徘徊サポート事業である「認知症おかえり支援事業」に参加し、行政・警察と連携して、在宅での認知症介護者の窓口となっている。ホームで申請すれば市と警察に同時に登録されるような仕組みを今後提案しようとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は更に精神的ダメージを大きくするというを理解したうえでケアを行っている。	契約書で身体拘束排除を宣言し、かつ、例外的な拘束事由・その記録および開示・事前の承諾・期限の設定など入居時に必ず説明されている。今まで身体拘束の事例はない。「訪問時に鍵錠に時間がかかる」という家族アンケートにもその原因究明、打開策が検討され家族に説明なされている。	訪問時玄関及び各フロアが施錠されていた。「無言で外出する入居者はいない」とのことであったが、防犯と階段での危険性を考慮し施錠している。施錠せずに階段での危険をなくす方法はないのか？職員の衆知を集めて一考を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に利用者様の状況を職員から聞き、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明ができています。理解や納得も確認できています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様のご意見には早急に対応できるように職員と出た意見について話し合い、結果を必ず伝えるようにしている。	家族会は一度開催したが、10家族ほどの参加があった。ホーム便りは法人在宅介護部門と、「ちくさ」独自のものがあり、独自の便りは毎月発行し、入居者の笑顔の写真に家族は安心している。家族からの要望は必ず職員で共有・解決し対応策は必ず家族に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を設けたり、面談を設けたりと聞く機会を設けている。職員の意見は反映できるように努力をしている。	毎日の申し送り時に「一日一提案」を職員に課し、毎日のケアの反省点などが改善されている。月一回の職員会議等でも改善案が出され、その場で解決できなければカンファレンスを開催し、衆知を集めて解決している。個人的な要望は管理者の携帯を通じて相談がありその都度解決している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々職員個々の状況は把握できるようにしており、やりがいや向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内外研修を職員に参加してもらい、常にスキル向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多施設への見学や地域の連携の会への参加をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談には時間をかけ、利用者様には安心してご利用していただく努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談には時間をかけ、ご家族様には安心してご利用していただく努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の中で必要としている支援を見極め、利用者様が一番合ったサービスを考え助言している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の尊厳を大切に、自分がされたくないことはしない。家族のように接し、何事も共有できる関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人を交えて家での生活や様子など、話を聞くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族が同意されればいつでも面会や外出をしていただいている。	友人知人の面会も、家族の同意のもとにいつでも支援している。ただ友人等で認知症を知らない場合に備え、面会前に必ず認知症のレクチャー・本人の現状報告をし、ショックを与えないよう配慮している。訪問時も家族から「入居者を知人の葬式に連れ出したい」と連絡があり管理者は参列を勧めていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士の関係を維持できるように環境を整えている。散歩や外出での気分転換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も施設によって頂く声掛けや他施設利用後支援が必要な場合は相談にのることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を尊重している。(外出、起床や就寝時間等)	外出、起床・睡眠時間、食事の時間など個々の要望に応じているが、朝食をずらすことで昼食が摂れないことに心を配る、「塩梅を図れる」職員もおり、管理者は全幅の信頼を寄せている。スタッフの都合ではなく本人の自立を優先し、車いすの人も介助で手を出す前に自立できる手助けを心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談や面会者と情報交換を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設の都合や職員の都合にあわせることなく、本人の状態や能力に応じて対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と連携し今後の介護方針を決めている。	職員の担当制を採用することで、昨日より、先週より目について変化をつぶさに発見でき、日報・申し送り情報共有されている。その場で変更できることは管理者から全職員に伝達され、直ちに介護手技が変更され、検討が必要な場合はカンファレンスで解決・実行されている。	入居者の変化・問題点は現実に、提案・相談され、解決されているが、いまだケアプラン見直しの記録がなく、見直し時期の文書化も見られなかった。提案から職員の解決策検討、結果としてプラン見直しに至る経緯の明瞭化を一考され、家族の安心・信頼を一層増す取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を細かく記録しケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	陶芸クラブやテニスなど施設以外のクラブに参加している方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけのマッサージ屋やスーパーなど、自宅での生活習慣に合わせた対応をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医を尊重している。2週間毎の往診がされている。	眼科、皮膚科、歯科などご本人やご家族が希望されるかかりつけ医に行って頂けるよう、通院方法等ご家族と打ち合わせをしている。かかりつけ医からの情報伝達をホームにも教えてもらうようにしている。認知症専門医の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝礼時のカンファレンスや随時情報交換を行っている。状況に応じては主治医と連携し受診対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後の連携を病院MSWとしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設で定めた重度化対応指針に添って家族と事前に話をしている。	ご本人、ご家族の意向を尊重し事前に話し合いの場を設けている。ホームとしては「第二の家」となりたいと考えているので、終末期への対応は今後体制を整えて行く方針がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受けている。今年度中に2回目を準備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を実施している。	年二回防災訓練を実施している。夜間想定訓練も実施し、設備点検も兼ねて利用者にも参加してもらっている。スタッフは救命講習にも参加している。	地域住民の協力も得ながらの災害対策に取り組まれる工夫を今後期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生経験に応じて対応している。(会社役員など)	ご本人の尊厳を傷つけていないか、常に気を配っている。呼びかけも入居者さんの歴史に合わせて「社長」と呼ぶなど工夫してコミュニケーションをとっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を聞きながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩の行先など、本人の希望に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を選んでもらったりお化粧品をもらうなど対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外食にでかけることを定期的に行っている。利用者に盛り付けを行ってもらっている。	月に数回は外出レクとして近所のファミリーレストランや喫茶店で外食するなど楽しんで行っている。調理の手伝いもその方の能力に応じて積極的に参加していただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を毎食時や飲食時にチェックして確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。介助が必要な方はその都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツの前に布のパンツで対応している。排泄のリズムの把握を行い声掛けなどしている。	チェック表を使いながら一人お一人の周期を見極めてトイレ誘導に努めている。尊厳を傷つけないようにさり気なく気を使ってサポートしているが、時には大きな声で誘導してしまうスタッフもいるため今後の課題と考える。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が多いものを提供したり、牛乳、ヨーグルトの摂取をしている。歩行機会の確保に努めるなどの対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は固定となっているが、その日の状態に応じて入浴日を変更するなど柔軟には対応している。	朝・夕などの時間帯の希望にあわせるように努力している。現在は週に2回の固定となっているが、毎日入りたいという要望があれば検討して実現できるようにしたいと考えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状態に応じて休む時間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬を入れている袋には現在飲んでいる薬を明記したものをに入れており、内服直前でも確認できるようにしている。症状の変化は毎日の観察を記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除機をかけてもらうことや、食事の盛り付け、お化粧品など、それぞれの生活習慣に合わせて対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせて散歩、野菜の買い出しにでかけている。 ドライブ、公園で花をみる、回転ずしなどにでかけている。	職員が積極的に外出の企画をして楽しみながら外出支援を行なっている。 近所の散歩の他、車での外出など、かなり自由に入居者が行きたいところへ行けるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけ欲しいものを選んで購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方や手紙のやり取りをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花を植えたり、共用部分には季節を感じられる作品や施設で作った新聞を掲示し振り返っていただける空間にしている。	外出した記録など新聞のようにして壁面を賑やかに飾っている。少しでも一緒に体験した思い出を振り返っていただいで楽しく生活する支援に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前のソファや過ごして頂くようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や仏壇を持ち込んで家での生活と同じような環境にしている。	ベット等には「眠りスキャン」という装置が設置しており、事務室にいながらお一人お一人の睡眠時間・状態を把握することができ、記録にも残すことができる最先端のシステムが導入されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に応じて安全でできることは促すようにしている。		